



国土交通省

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト

清水港 興津第1埠頭の整備

(1962~1966)



戦後復興期から高度経済成長期に入り、清水港背後でも製造業が発達し、缶詰や合板等の輸出需要が高まりました。

こうした輸出貨物の増加に対応するため、1960年(昭和35年)、興津第1・第2埠頭の建設を計画決定し、1962年(昭和37年)に興津第1埠頭の工事に着手、1966年(昭和41年)に西側の2~3号岸壁が完成しました。

その後、更なる需要拡大に伴い、1980年(昭和55年)から1983年(昭和58年)にかけて、耐震構造の1号岸壁を追加整備し、現在は、冷凍マグロの荷揚げや、埠頭内に立地する上屋において、輸入紙パルプ等が取り扱われています。

かつて、興津地区から袖師地区にかけては、清見潟に代表される風光明媚な海岸が広がっていました。高度成長期における清水港の拡充整備は、この海岸の埋め立てを伴う大規模な工事となりましたが、その裏には、地域住民の皆様や漁業を営まれている皆様の多大なご協力やご決断をいただいたことを忘れてはなりません。

- 主要施設 / 興津1号岸壁(水深10m、延長185m、耐震構造)、興津2号岸壁(水深10m、延長186m、耐震構造)
興津3号岸壁(水深10m、延長185m)
- 構造形式 / 興津1号岸壁: 矢板式岸壁、興津2~3号岸壁: 栈橋式岸壁
- 事業期間 / 1962年(昭和37年)~1966年(昭和41年)(興津2~3号岸壁) ※その後、1980年(昭和55年)~1983年(昭和58年)に興津1号岸壁を追加整備

興津町(現・清水区興津清見寺町)(昭和初期)



清見潟(1960年)



工事中の興津防波護岸(1962年)



興津第1埠頭整備前



現在の興津第1埠頭付近
(2021年5月)

現在の利用状況



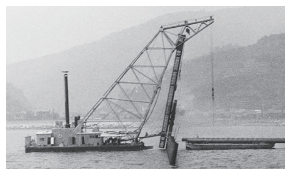
着岸する冷凍マグロ運搬船
(2021年5月)



冷凍マグロの荷揚げ
(2019年2月)



興津第1埠頭 起工式
(1962年8月3日)



興津1号岸壁 鋼管杭の打設工事
(1964年)



工事中の興津第1埠頭
(1965年)